

WAP121およびWAP321アクセスポイントでのポリシーマップの追加

目的

クラスマップとポリシーマップは、音声やマルチメディアなどのアプリケーションがベストエフォートデータ配信サービスを提供することを保証するために使用されます。クラスマップは、IPプロトコルおよびその他の基準に関連してトラフィックを分類します。各クラスマップは、トラフィッククラスの処理方法を定義するポリシーマップに関連付けることができます。時間に依存するトラフィックを含むクラスは、他のトラフィックよりも優先されるポリシーマップに割り当てることができます。ポリシーマップを設定する前に、クラスマップを設定する必要があります。WAPデバイスは、最大50のポリシーマップと10のクラスマップをサポートできます。

注：クラスマップの設定方法については、「[IPv4ベースクラスマップの作成と設定](#)」
[WAP121およびWAP321アクセスポイントのIPv4およびWAP55でのIPv6ベースクラスマップの設定](#)」を参照してください1および[WAP561 Access Points for IPv6](#)

この記事では、WAP121およびWAP321アクセスポイントでポリシーマップを設定する方法について説明します。

該当するデバイス

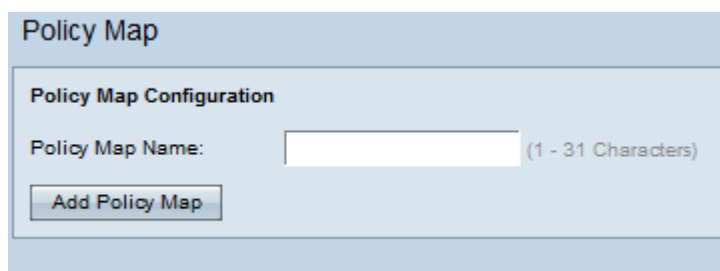
- ・ WAP121
- ・ WAP321

[Software Version]

- 1.0.3.4

ポリシーマップの追加

ステップ1：アクセスポイント設定ユーティリティにログインし、[Client QoS] > [Policy Map]を選択します。[ポリシーマップ]ページが開きます。



Policy Map

Policy Map Configuration

Policy Map Name: (1 - 31 Characters)

Add Policy Map

Policy Map

Policy Map Configuration

Policy Map Name: (1 - 31 Characters)

ステップ2:[Policy Name]フィールドにポリシー名を入力します。これには英数字を含み、1 ~ 31の範囲を指定する必要があります。ポリシー名にスペースを含めることはできません。

ステップ3：新しいポリシーを追加するには、**[Add Policy Map]**をクリックします。ポリシーマップを設定するための追加フィールドがページに表示されます。

Policy Class Definition

Policy Map Name:

Class Map Name:

Police Simple: Committed Rate: (1 - 1000000 Kbps) Committed Burst:

Send:

Drop:

Mark Class Of Service: (Range: 0 - 7)

Mark IP DSCP: Select From List:

Mark IP Precedence: (Range: 0 - 7)

Disassociate Class Map:

Member Classes:

Delete Policy Map:

ステップ4:[Policy Map Name]フィールドで、ドロップダウンリストから作成したポリシーマップを選択します。

ステップ5:[Class Map Name]フィールドで、分類基準が定義されているクラスマップをドロップダウンリストから選択します。

ステップ6:[Police Simple]フィールドで、Committed RateパラメータとCommitted Burstパラメータの値を入力するには、このチェックボックスをオンにします。Police Simpleは、クラスのポリシースタイルを確立するために使用されます。ポリシースタイルは、単一のデータレートとバーストサイズを使用して結果を生成します。使用可能なオプションは次のとおりです。

- Committed Rate — Committed Rateフィールドに、トラフィックが準拠する必要がある認定レートをKbps単位で入力します。これは、ネットワーク内に存在するユーザの数に関係なく、ユーザが常に保証されるデータレートです。範囲は1 ~ 1000000 Kbpsです。
- Committed Burst (認定バースト) :Committed Burst (認定バースト) フィールドに、トラフィックが準拠する必要がある認定バーストサイズをバイト単位で入力します。ネットワーク内で転送できるデータの最大量です。範囲は 1 ~ 204800000 バイトです。

Policy Class Definition

Policy Map Name:

Class Map Name:

Police Simple: Committed Rate: (1 - 1000000 Kbps) Committed Burst:

Send:

Drop:

Mark Class Of Service: (Range: 0 - 7)

Mark IP DSCP: Select From List:

Mark IP Precedence: (Range: 0 - 7)

Disassociate Class Map:

Member Classes:

Delete Policy Map:

注：次の手順はすべてオプションです。ステップ7～11では、一度に1つのオプションのみを選択できます。チェックボックスがオンになっているボックスは有効になります。特定のポリシーマップ定義を適用しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

ステップ7:[Send]チェックボックスをオンにし、関連するトラフィックストリームのすべてのパケットが転送されるようにします。

ステップ8：関連付けられたトラフィックストリームのすべてのパケットがドロップされるように、[ドロップ]チェックボックスをオンにします。

ステップ9:[Mark Class of Service]チェックボックスをオンにして、Class of Serviceの値を入力します。これにより、802.1pヘッダーのプライオリティフィールドに指定されたサービスクラス(CoS)値を持つ、関連するトラフィックストリームのすべてのパケットが分類されます。

ステップ10:[Mark IP DSCP]チェックボックスにチェックマークを付け、[Mark IP DSCP]ドロップダウンリストから目的のIP DiffServコードポイント(DSCP)を選択します。DSCPは、フレームのIPヘッダー上でトラフィックの優先順位を指定するために使用されます。これにより、関連付けられたトラフィックストリームのすべてのパケットが、リストから選択したIP DSCP値で分類されます。DSCPの詳細については、[こちらを参照してください](#)。

ステップ11:[Mark IP Precedence]チェックボックスをオンにして、値を入力します。優先順位値フィールドに入力された、指定されたIP優先順位値を使用して、関連するトラフィックストリームのすべてのパケットを分類します。

ステップ12:[クラスマップの関連付け解除(Disassociate Class Map)]チェックボックスをオンにして、[クラスマップ名(Class Map Name)]ドロップダウンリストから選択したクラスを削除します。

[メンバークラス]フィールドには、選択したポリシーのすべてのクラスメンバーが表示されます。クラスメンバーがポリシーに追加されていない場合は、空として表示されます。

ステップ13 : ポリシーマップを削除するには、[ポリシーマップの削除]チェックボックスをオンにします。

ステップ14:[Save]をクリックして、設定を保存します。